

平成22年度宮古群島病害虫発生予報第5号(8月予報)

8月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日 照 時 間
高い(多い)	60	30	40
平 年 並	30	30	30
低い(少ない)	10	40	30

(平成22年7月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	28.1	30.9	25.8	252.0	224.0

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

8月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

野その防除対策

- a 7月上旬の調査の結果、池間島の一部圃場において野その被害が確認され、被害茎率は0.1%以下(平年0.1%)と平年並みであった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

2 マンゴー

収穫後の病害虫防除対策

- a 7月中旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり虫数は2.8頭(前年5.2頭、平年3.2頭)と平年並みであり、ハダニ類の葉当たり虫数は4.4頭(前年1.7頭)であった。また、一部の施設でコシロモンドクガ、カイガラムシ類の被害が見られた。
- b 収穫後に切り返し剪定を行って発生させる新梢は、次年度の結果母枝となる。充実した健全な結果母枝とするためには、徹底した病害虫防除が重要である。
- c アザミウマ類、ハダニ類やカイガラムシ類などの微小害虫は一般的に風雨に弱いことから、樹勢回復も兼ねて、早めに被覆ビニールを取り除く。
- d 灌水を行う際、噴霧機などで微小害虫を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- e 新梢の発生を揃えることで、アザミウマ類の防除効果が高くなることから、施設ごとに剪定を同時期に行う。
- f 剪定後の残渣は、炭疽病や軸腐れ病などの発生源となるため、速やかに施設外に持ち出し処分する。

